

2020年度 第1回超電導応用研究会シンポジウムのご案内

現在、地球上において温室効果ガス排出量の低減は急務となっております。その中で、近年は航空機の電動化に関する研究開発が国内外で活発に行われてきております。航空機の電動化は、推進システムのターボファンエンジン部分に高出力密度のモータや発電機、電力変換器を必要とする一方、発電電力の送電系統最適化、フライトコントロール部分における電気機械式アクチュエータや液体水素燃料の使用検討など、様々な電気工学分野の技術を結集させる必要があります。そして航空分野の研究者・技術者との議論を通し、電気工学と航空工学の技術的ノウハウを融合させ、航空機のシステムを多角的な視点で捉えて研究・開発していくことが求められています。

上記を踏まえ、本シンポジウムでは将来の電動航空機の実用化に関しまして、その概要から周辺技術まで様々な技術分野の現状を知るための講演を企画いたしました。超電導工学の範囲に収まらない、幅広い議論や意見交換が行えることを期待し、多くの方々のご参加をお待ちしています。

- テーマ:** 将来の電動航空機の概要と周辺技術の動向
日時: 2020年12月15日(火) 13:30~17:00
開催方式: Microsoft Teams によるオンラインミーティング形式で開催
(接続先 URL はお申込みいただいた方に別途連絡差し上げます)
参加費: 2,000円
(資料代として。集金方式は PayPal による電子決済を予定しております。)

プログラム

13:30~13:35	1. 開会の挨拶	超電導応用研究会委員長 山田雄一(住友電気工業)
13:35~14:10	2. 電動航空機の背景と概要 (発表 30分+質問/議論 5分)	岡井敬一 (JAXA)
14:10~14:45	3. 電動航空機における境界層吸い込み(BLI)の概要 (発表 30分+質問/議論 5分)	山北晃久 (JADC (現 川崎重工業))
14:45~15:20	4. 電動航空機におけるアクチュエータ技術 (発表 30分+質問/議論 5分)	寺尾悠 (東京大学)
15:20~15:40	休憩	
15:40~16:15	5. 超電導技術を用いた航空機向け給電システム (発表 30分+質問/議論 5分)	吉田良行 (産業技術総合研究所)
16:15~16:50	6. 液体水素燃料を用いた航空機の概要 (発表 30分+質問/議論 5分)	小島孝之 (JAXA)
16:50~17:00	7. 閉会の挨拶	超電導応用研究会副委員長 中村武恒(京都大学)

オーガナイザー: 寺尾悠(東京大学)、中村武恒(京都大学)

申込方法:「第1回超電導応用研究会シンポジウム申込」と件名に記載し、氏名、所属、連絡先(電話番号、電子メール)をご記入の上、2020年12月8日(火)までに下記へお申込みください。

東京大学 大学院新領域創成科学研究科 先端エネルギー工学専攻 寺尾悠

E-Mail: yterao8934@g.ecc.u-tokyo.ac.jp